

「釜石応援団」の旅、再び（1）

高田 隆之

小さな駅にあるエスペラント駅名標は撤去した。 ええっ！！

昨年 10 月「釜石線応援団」の旅に参加した。その旅の目的の一つが釜石線各駅にあるエスペラント愛称標示板の見学であった。各駅にエスペラント愛称標示板があるのが嬉しかった。しかし①なぜか釜石駅と岩手上郷駅にはなかった。②小さな駅にあるメガネ型の標示板が痛んでいた。この 2 点の問題を JR へ改善依頼をしたかったが、どこへ依頼して良いのか分からなかった。たまたま、JR 東日本、盛岡支社の HP にあった番号へ電話して聞くと JR 東日本の HP に質問欄があるのでそこへ依頼をすればよいと教えてくれた。

JR 東日本の HP の質問欄へ再設置や修理の予定はないか質問した。しばらくして回答があった。その回答はビックリするものであった。回答は①釜石駅には再設置した。岩手上郷駅に再設置の予定はない。②小さな駅にあったメガネ型の愛称標示板は撤去した。というものであった。その後、2 回補足質問をしたが、同じような答であった。

これは大変なことになったと思い、青山さん、田中さん(エスペラントの世界編集長)、地元のイーハトヴ・エスペラント会へ愛称標示板撤去を連絡した。青山さんの御助言により ERAJ へも投稿した。再設置運動をしなければならないと思い、準備を始めた。

田中さんより現状を調べるために、釜石線に乗りに行こうとお誘いがあったが、あいにく用事があり、田中さん 1 人で行って頂いた。新花巻駅(新幹線から釜石線への乗換駅)に着いた田中さんより、鐘(鈴)の部分は丸い枠ごと、撤去されているが、エスペラント標示部は撤去されていないとの電話があった。田中さんの許可を貰い、エスペラント駅名標が“撤去”されていなかったことを前に連絡した方々へ伝え、ERAJ へも投稿した。



昨年のエスペラント愛称標示板



今年のエスペラント愛称標示板

これは私も釜石線に乗り、現状を確認しなくてはいけないと思った。合わせて、津波の被災地の再訪、毎年 9 月 21 日、宮沢賢治の命日に行われる賢治祭への参加、今年は少雨のため、久しぶりに見られるというイギリス海岸の見学等、欲張った計画を前日にあわただしくたてた。さらに時間があれば盛岡へも行こうと考えた。

ふたたび津波の被災地へ

朝、昨年も来た、「道の駅やまだ」に着いた。店はまだ閉まっていた。まず、山田の町へ行こうと思ったが、私の記憶違いで町はこれから向かう釜石とは逆方向で、「道の駅」の北側でかなり距離があった。釜石方面の路線バスの出発まで時間があるので、南へ向かって

歩き、山田町船越へ行った。山田線の岩手船越駅があった。高台のため、津波の被害はないが、山田線不通のため閉鎖されていた。海岸へ行くと、遠くに鉄骨だけになった大きな建物が見えた。周辺も建物があったのだと思うが一面の野原である。更に遠くにはガレキの山が広がり、クレーン車が数台作業をしていた。海岸は防潮堤が完全に破壊され、そのままになっていた。



津波で破壊された防潮堤(山田町船越)

船越駅前から路線バスで吉里吉里(きりきり)1丁目まで行った。車内でこのバスは国の援助で運行している。乗客が少ないと援助が打切られる恐れがあると放送していた。

大槌町吉里吉里も津波の大災害にあった。立ち寄ったコンビニは津波で流され、プレハブで営業を再開したとのことであった。津波の時の付近の状況を店員が話してくれた。バス停は少し高台にあるが、津波はそこまで到達したそうである。被害の無いように見える、少し高台の家も被害に遭っているとのことであった。海の方を見ると、かつて家があったと思う所に、野原が広がっていた。



吉里吉里駅のエスペラント標示板

高台にあり津波の被害のなかった吉里吉里駅を見た。老朽化で駅舎は撤去されたが、エスペラントの愛称駅名標はそのままあった。鈴(鐘)部はなかったが山田線が不通のためかその周囲の丸柱は撤去されていなかった。駅は独立国ブームの時はにぎわったというが、今は一人では怖いくらいに誰もいない。

再びバスで釜石駅へ向かった。大槌の町は去年の状態と余り変わっていなかった。大きな病院をはじめ多くの鉄筋の建物が無残な姿

で立っていた。建物跡と思われる空地が一面に広がり、去年より雑草が目立った。塩分が少なくなったためだろうか、今年はガレキがなかったからであろうか。復興はあまり進んでいないように見えた。復興はこれからが本番だと思う。私たちも津波のことを忘れず、ささやかでも支援を続けなければならないと思った。救いは町はずれに大きなショッピングセンターができていて、駐車場にかなり車が止まっていたことであった。

大槌と同じような光景が広がる、釜石市鶴住居(うのすまい)を通り、バスはやがて釜石市街地にさしかかった。ここは昨年、家を取り壊してガレキを取り除いて欲しいという印の赤い旗が目立った所である。赤い旗があった所だと思うが、空地がかなりあった。建て直したのか補修したのか、商売をはじめている店もあり、この地域は他に比べ、復興し始めている感じであった。やがて、バスは釜石駅前に到着した。

「釜石線応援団」の旅、再び（2）

高田 隆之

釜石線のエスペラント愛称の標示板をすべて確認した

釜石線のエスペラント標示板の現状を見るため、釜石線に乗った。釜石駅の改札口付近は昨年と変わらなかった。ホームに出ると昨年なかったエスペラント愛称の標示板が誇らしげに私を迎えてくれた。JR の回答通りに再設置されているのを確認した。あいにくの



再設置された釜石駅の
エスペラント駅名標

雨であったが、列車をバックに写真をとった。釜石駅のエスペラント愛称標示板は釜石線に5駅しかない、信号型のものである。これは大きな駅に設置されている。

今回はすべての駅のエスペラント愛称の標示板を見るつもりでいるので、車掌さんに駅名標の位置を聞いた所、一定せず、駅により異なるとのことだった。釜石線乗車中は忙しかった。列車が駅に着く少し前に座席を立ち、ホームのどこにエスペラント駅名標があるかを確認し、2両連結の列車の最前部、最後部、真ん中のドアと急いで動き、場合により、ドアから降りて写真を撮った。車掌さんも協力してくれ、私が飛び乗るとすぐ、ドアを閉めた。ドアから撮れない場合は他の乗客の好意で窓越しに撮影した。エスペラント愛称標示板のない岩手上郷駅を除き総ての駅で駅名標を確認し、撮影することが出来た。あいにくの雨で写りが悪く、また、かなり斜め方向からしか撮影できない駅も多かった。

賢治祭にはじめた参加した

花巻駅の観光案内所でイギリス海岸と賢治祭のことを伺った。イギリス海岸はこの所、雨が強く報道とは違い、わずかに岩が見えるだけだとのことだった。残念だったが行くことをあきらめた。賢治祭は天気が悪いので場所を変更して小学校の体育館で行うことになったとのことであった。「雨ニモマケズ詩碑」前でかがり火を焚いて行う賢治祭を期待していたのでこれも残念だった。宿へ行くバスの乗り場と時刻を尋ねると、案内所の人を外に飛び出し、動きだしているバスを止めてくれた。

宿に荷物を置き、賢治祭へ行くため、バスの停留所へ向かった。停留所の前が賢治の生家である。以前見た時と違い、建てかえられ瀟洒な建物になっていた。「見学は御遠慮ください」と書いてある門の前で家を見ていると、車から下りてきた、老婦人が中へ入れという。伺うと賢治の姪だという。多分、賢治の実弟、清六さんの娘さんだろう。部屋の中まで入らせて頂いたが、賢治祭＝賢治の命日のためか大勢の人がいたので、すぐに退去した。

賢治祭は無料で誰でも自由に参加できる。私が賢治祭の会場の小学校の体育館に着いたのは第1部が終わり、賢治への献花の時間だった。私も列に並び生の演奏が流れる中で献花した。間もなくメインの第2部が始まった。詩の朗読(賢治の詩や朗読者の自作の詩など)、合唱(小学生、高校生、地域の婦人会)、参加者全員による合唱(ポラーノの広場、精神



賢治祭でのママさんコーラス

歌)、演劇、郷土芸能など色々あった。精神歌を歌詞も見ないで歌っている人もいた。

津波に関しても「今、イーハトーブの海岸では」と題して釜石の小学校の先生の話や地元の詩人の「ばあさんのせなか」という津波で娘や孫を亡くした、おばあさんを題材にした、方言での独り言の詩が朗読された。方言のため、分からない言葉もあったが、涙が出て困った。興味深かったのは、賢治の姪、佐々木フミさん(賢治の実妹、シゲさんの娘)の話だった。聞き手が上手だっ

たため、出演を固辞していたという割に面白い話が聞けた。中学校の教科書にもある、賢治の詩「永訣の朝」では妹のトシさんの病床の傍に居るのは賢治一人のように感じられるが、実際はシゲさんと賢治の二人だったという。(あめゆじゅとてちてけんじゃ)と言われて雪をとったのはシゲさんで、それを賢治の持つ陶椀に移したのだという。何か「永訣の朝」の印象が違ってくるような気がした。

翌朝、雨ニモマケズ詩碑(羅須地人協会跡地)へ行った。そこで会った地元の人はここで賢治祭が開かれると、次の日の朝はその名残があつていい雰囲気だと言っていた。また、その人にかすかにではあるが、早池峰山が見えていることを教えて頂いた。

盛岡で啄木・賢治の青春を訪ねる

花巻駅から東北線で盛岡へ行った。盛岡では、「啄木・賢治青春館」を訪ねた。啄木も賢治も旧制盛岡中学の出身で青春時代を盛岡で過ごしている。賢治は更に盛岡高等農林出身なので10年間くらい盛岡で暮らしていた。二人の青春時代を中心に業績が展示してあった。更に石割桜、啄木の短歌にも出てくる岩手城跡を見た後、以前から気になっていた、材木町の光原社へ行った。ここは、賢治の本(注文の多い料理店)を最初に出した所である。光原社内にはその石碑もあった。賢治の童話も詩集も生前にはほとんど売れなかった。光原社は現在はブティックや喫茶店、土産物屋などになっているが、敷地が広く賢治関係のものも展示されミニ博物館になっている。例えば、賢治の遺言で父親の政次郎さんが1000部作成した「国訳妙法蓮華経」などである。光原社の近くの道路には賢治像があり、帽子を脇に置き、座っていた。



盛岡市材木町にある賢治像